

学会発表

(*は、財団研究員；**は、客員研究員)

IAGG Asia / Oceania Regional Congress 2023
(2023/6/12-14 : 横浜)

① Momomi Nakamura*, Tomoaki Ishibashi*, Tetsuya Tsuruoka. Japanese Nursing Facilities for the Elderly are Required to Respond to COVID-19 ; Analysis of Free-Description Data.

【発表要旨】第7波における職員の気づき(自由記述)は、入所(感染拡大防止)と通所(感染予防)に分かれていた。施設の多くは、通所と入所の両機能を備えているため、同一施設でも機能によってCOVID-19への対応を変える必要がある。

② Shunji An*, Naoakira Niino**. Effects of Positive Psychology-Based Health Programs on Middle-aged and Older Adults.

【発表要旨】ポジティブ心理学的介入の手法を取り入れた健康増進プログラムは、中高年者の不安をはじめとする精神的健康に良い影響を与えることが示唆された。今後は、改善効果を維持するためのフォローアップ体制を整えていくことが課題である。

③ Kumi Morishita-Suzuki*, Narumi Tsukamoto**, Momomi Nakamura*, Tomoaki Ishibashi*. Productive Activities of Japan's Silver Human Resources Center Enhance the Well-being of Older Adults with Frailty.

【発表要旨】後期高齢期のセンター会員に面接調査を行った結果、フレイルに該当する者でも、センターでの「身体・精神的に活動的でいられる」「社会関係が広がる」「生活を自己選択できる」経験がWell-beingの向上に寄与することを実感していた。

④ Akiyo Sasaki-Otomaru*, Rina Sato, Yuka Kanoya. Effect of classical music on objective sleep quality in older inpatients: A randomized controlled trial.

【発表要旨】高齢入院患者を対象として音楽聴取の睡眠への効果を実験比較試験で検討した結果、介入群の3日目のレム睡眠が対照群と比べて有意に長かったことから、入院による認知機能低下を防ぐ可能性がある。

第33回日本老年学会総会 (2023/6/16 : 神奈川)

石橋智昭*. シンポジウム「高齢者の就労をめぐる諸問題と老年学の貢献」にて座長及び討論者として登壇

日本ケアマネジメント学会第22回研究大会 (2023/6/17-18 : 神奈川)

石橋智昭*, 佐々木晶世*「ADL改善を質の評価指標に用いる際の課題；認知機能障害がアウトカムに及ぼす影響」

【発表要旨】介護施設の利用者571人を追跡した結果、自立維持を含むADL改善が11.6%認められたが、認知障害度

が重いほどADL改善率は低く(オッズ比0.6)、質の評価での認知障害度の補正の必要性を確認した。

(本発表は 第33回日本老年学会総会との合同ポスター(ケアマネジメント部門)で最優秀演題賞に表彰されました。)

日本老年看護学会第28回学術集会 (2023/6/17-18 : 神奈川)

佐々木晶世*, 石橋智昭*「高齢者施設入居者の疼痛の実態」

【発表要旨】2022年度4法人のアセスメントデータをもとに高齢者施設入居者の疼痛の実態について検討した結果、持続的な痛みを持つ者は31%、グループホームで痛みに関してケアの質の高い施設が少なかった。

日本老年社会学会第65回大会 (2023/6/17-18 : 神奈川)

① 中村桃美*, 石橋智昭*, 中村正人「高齢者福祉施設における防災対策体制の実態；担当者とチーム制の採用に焦点をあてて」

【発表要旨】施設の防災対策担当者・責任者の多くは管理職(施設長・副施設長)が担っていた。一方で、非管理職(介護職など)が防災対策の担当者や責任者を担う場合には、積極的にチーム制を採用している施設が多くみられた。

② 石橋智昭*, 森下久美*, 上原桃美*, 松山玲子, 姉崎猛「シルバー人材センター会員の転倒による受傷事故；男女別の骨折割合の比較」

【発表要旨】傷害事故3,785件のデータから、転倒事故および骨折の発生割合を分析し、女性の骨折のリスクは男性の1.5倍高く、転倒防止を含む骨折リスクの啓発が喫緊の課題であることを示した。

③ 安順姫*, 新野直明**, 岩田明子*「通所介護サービスにおけるこころの健康増進プログラムの実践」

【発表要旨】職員と協働する、リラックスした環境をつくる、参加時の達成度を高めるなど実施上の工夫により、通所介護サービスを利用する要支援~要介護2の利用者が講義を聞き、グループワークに参加することは可能と考えられた。

④ 森下久美*, 渡辺修一郎**, 本橋昇, 石橋智昭*「地域在住後期高齢者における認知機能と食品摂取多様性の関連」

【発表要旨】女性では、認知機能と食品摂取多様性に正の関連が示されたが、男性では有意な関連は認められなかった。女性は伝統的な性役割により食事準備を担うことが多いため、自身の認知機能が強く反映されたと考えられる。

⑤ 澤岡詩野*, 渡邊大輔, 中島民恵子, 大上真一「都市高齢者の被援助志向性：「援助に対する抵抗感」に着目して」

【発表要旨】都市高齢者の日常生活場面における援助志向性について分析を行った結果、男性については、地域のお祭りに参加していることに加え、実際に援助が必要になるであろう高齢や健康度の低さが「身近な他者」からの援助への抵抗感を高めていることが明らかになった。

⑥ 山城大地, 藤田幸司, 相良友哉, 澤岡詩野*ほか「地域の居場所づくりの支援者における多様な地域の居場所の把握・連携状況(その1)：居場所のタイプ別の比較」

◆ Dia Information ◆

【発表要旨】日本全国の居場所づくりに関わる支援者を対象に居場所の把握・連携状況についての調査を行った。この結果、居場所の主な目的の違いにより、支援者の把握・連携状況がことなることが示された。

- ⑦相良友哉, 藤田幸司, 山城大地, 澤岡詩野*ほか「地域の居場所づくりの支援者における多様な地域の居場所の把握・連携状況(その2):支援者の職種および都市規模別の比較」

【発表要旨】生活支援コーディネーターをはじめとする専門職の職種や都市規模別に地域の居場所の把握・連携状況の分析を行った。結果、大都市にくらべて小規模の自治体では、把握や連携が進んでいない可能性が示唆された。

- ⑧石橋智昭*. シンポジウム「支援者支援」に座長及び討論者として登壇
⑨澤岡詩野*. シンポジウム「つながりをもとめて」に演者として登壇「つながりを支えるICT」

日本看護研究学会第49回学術集会(2023/8/19-20:オンライン)

- ①佐々木晶世*「アセスメントデータによる要介護者の状態像および介護者属性が介護者ストレスに与える影響」

【発表要旨】介護者ストレスが悪化したのは23%、多重ロジスティック回帰分析の結果、要介護者自身や家族が施設入所など住む場所を変えた方が良いと思うことが最も介護者ストレス悪化に影響していた。

- ②佐々木晶世*. 日本生理人類学会とのジョイントシンポジウム「看護学と生理人類学の融合がもたらすもの」に演者として登壇

論文発表

(*は、財団研究員)

- ①森下久美*, 石橋智昭*「シルバー人材センターにおける事故防止体制上の課題」応用老年学17(1):51-59, 2023.
②星美鈴, 杉本健太郎, 佐々木晶世*, 叶谷由佳「サービス付き高齢者向け住宅の介護職が看護職に期待する役割」日本健康医学会雑誌 32(2):206-211, 2023
③南崎眞綾, 佐々木晶世*, 叶谷由佳「老年看護学教育における認知症一人称体験が看護学生のエイジズムと高齢者イメージに与える影響」日本健康医学会雑誌 32(2):193-199, 2023

講演など

石橋智昭:

- ①「シルバー事業に役立つ老年学のススメ」近畿ブロックシルバー人材センター連絡協議会・役員研修会(6/20、於:ホテルグランヴィア和歌山)
②「シルバー人材センターにおける安全就業対策の充実度評価および事故防止効果に関する共同研究事業・研究成果報告」安全就業大会(9/29、於:東京しごとセンター多摩)

澤岡詩野:

- ①「100歳人生のプロデューサーになろう!」座間市老人クラブ連合会創立60周年記念事業(6/4、於:ソレイユざま)
②「通いの場の拡大~日常生活にタネをまく~」令和5年度東京都介護予防フレイル予防推進員研修(8/8、於:新宿)
③「社会学:街に『居場所』をつくろう!」さいたまシニアユニバーシティ(9/27、於:大宮キャンパス) ほか

佐々木晶世:

千葉県立野田看護専門学校にて「保健医療福祉論」(6/5)、「地域コミュニティ演習」(7/12、8/28)の講師を担当

安順姫:

「こころと体の健康づくり:ハッピープログラム講座」ぐんま県民カレッジ連携講座(公益財団法人群馬県長寿社会づくり財団主催;9/4,11)

岩田明子:

「うつ予防-心の健康を保ち続けるための幸せ習慣-」介護予防サポーターフォローアップ講座(横須賀市民生局健康部健康増進課主催;9/28)

寄稿・取材記事ほか

澤岡詩野:

「高齢期の豊かさをプロデュースする手段としてのICT」公益財団法人長寿科学振興財団WEB版機関誌Aging & Health 106号(第32巻第2号,p.21-25)夏に寄稿(7/14)

森義博:

(株)セールス手帖社保険FPS研究所「LA情報」:「『日本の将来推計人口』から見えるもの-総人口とその中身(6月)、将来人口とライフプラン(7月)、団塊世代と団塊ジュニア世代(8月)」、「簡易生命表とライフプラン-平均寿命と生存確率(9月)」

その他

澤岡詩野:

リーフレット「スマホよろずサロンでみんな元気に!」の作成、財団ホームページ公開及び紙媒体配布(7/31)

【インターネットを利用した社会調査】

7月31日、「中高年の結婚等に関する調査(2022-23年度)」についてのニュースリリースを行い、調査報告書を公開しました。概要については、本誌8ページをご覧ください。

【Diaレポート】

当財団の2022年度の研究・活動実績、組織、財務の状況等をご報告する「Diaレポート2022」を7月に発行し、財団ホームページにも公開しました。

◆ Dia Information ◆

財団設立30周年記念シンポジウム開催のご報告とオンライン配信のご案内

9月6日、ビジョンセンター東京 京橋（東京都中央区）において、「認知症を正しく理解し、ストップ介護離職」をテーマに、財団設立30周年記念シンポジウムを開催しました。当日は、上野秀樹氏（千葉大学医学部附属病院患者支援部特任准教授 精神科医）による基調講演に続き、後半は上野氏と三菱グループの企業にお勤めのパネリスト3名をまじえ、パネルディスカッションを行いました。概要については次号にてご報告する予定です。なお、シンポジウムの録画映像をオンラインで無料配信中です。視聴をご希望の方は、財団ホームページ（<https://dia.or.jp>）からお申込みいただけます。

財団ホームページからの申込方法：

- ①トップページ上部の「ダイヤ財団設立30周年記念シンポジウム」の「お申込みはこちら」をクリック
 - ②「財団主催シンポジウム・セミナー」画面の「2023年度シンポジウム」の「視聴方法」に記載の申込サイトのURL(<https://online.npc-tyo.co.jp/event/56531/noby>)をクリック
 - ③申込サイトから必要事項をご入力の上、お申し込みください
- 申込期間：2024年3月22日（金）まで
視聴期間：2024年3月31日（日）まで
視聴料金：無料



発行者 公益財団法人 **ダイヤ高齢社会研究財団**
〒160-0022
東京都新宿区新宿 1-34-5 VERDE VISTA 新宿御苑 3 F
TEL：03-5919-1631 FAX：03-5919-1641
E-mail：info@dia.or.jp <https://dia.or.jp>

編集人 先瀬 信成

製作 芝ワーク（三菱製紙ホワイトニューVマット）

発行 2023.10.25 / No.111